

## と 止めよう差別の感染 広めよう感謝の心

見えないウイルスへの不安から生じる偏見や差別を受け、  
悲しみ、苦しんでいる人たちがいます。



コロナウイルスに感染し、体調が悪化。  
苦しい状況で治療を受けています。

コロナウイルスと闘う患者さんを、  
昼夜を問わず  
支えていらっしゃる方々があります。



本当に多くの方に支えられ、  
病気は治りました。  
家族にも笑顔があられます。

それなのに、元気になった彼に、  
「コロナがうつるから、近寄るな」と  
心無い言葉をかける人がいます。  
どうしてこんなことに…。



とても残念なことに、感染者やその家族、医療  
関係者等への不当な偏見や差別、いじめ、SNS  
等での心無い書き込みが起きています。

なぜ このようなことが起きるのでしょうか。  
私たちは、どうすれば いいのでしょうか。

こうした偏見や差別は、  
決して許されることではありません！

# 「ウイルスと最前線で闘ってくれている」

これは、プロ野球・阪神タイガースの元ヘッドコーチ片岡篤史さんの言葉です。新聞記事によると、片岡さんは、新型コロナウイルスに感染し、17日間に渡って、厳しい入院生活を過ごしたそうです。退院後に語ったのは、自らの入院生活を支えてくれた医療従事者への感謝の思いです。

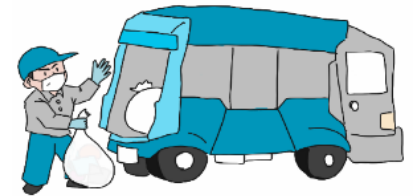


「医療従事者の皆さんはウイルスと最前線で闘ってくれています。自分も本当に助けられました。」(朝日新聞 令和2年5月18日(月)朝刊)

今、この瞬間も、感染者や私たちのために、感染のリスクがあるのにも関わらず働いてくださっている方々があります。それは、医師や看護師、保健所の職員など感染症の対策や治療にあたる方、ごみの回収など社会機能の維持にあたる方などです。

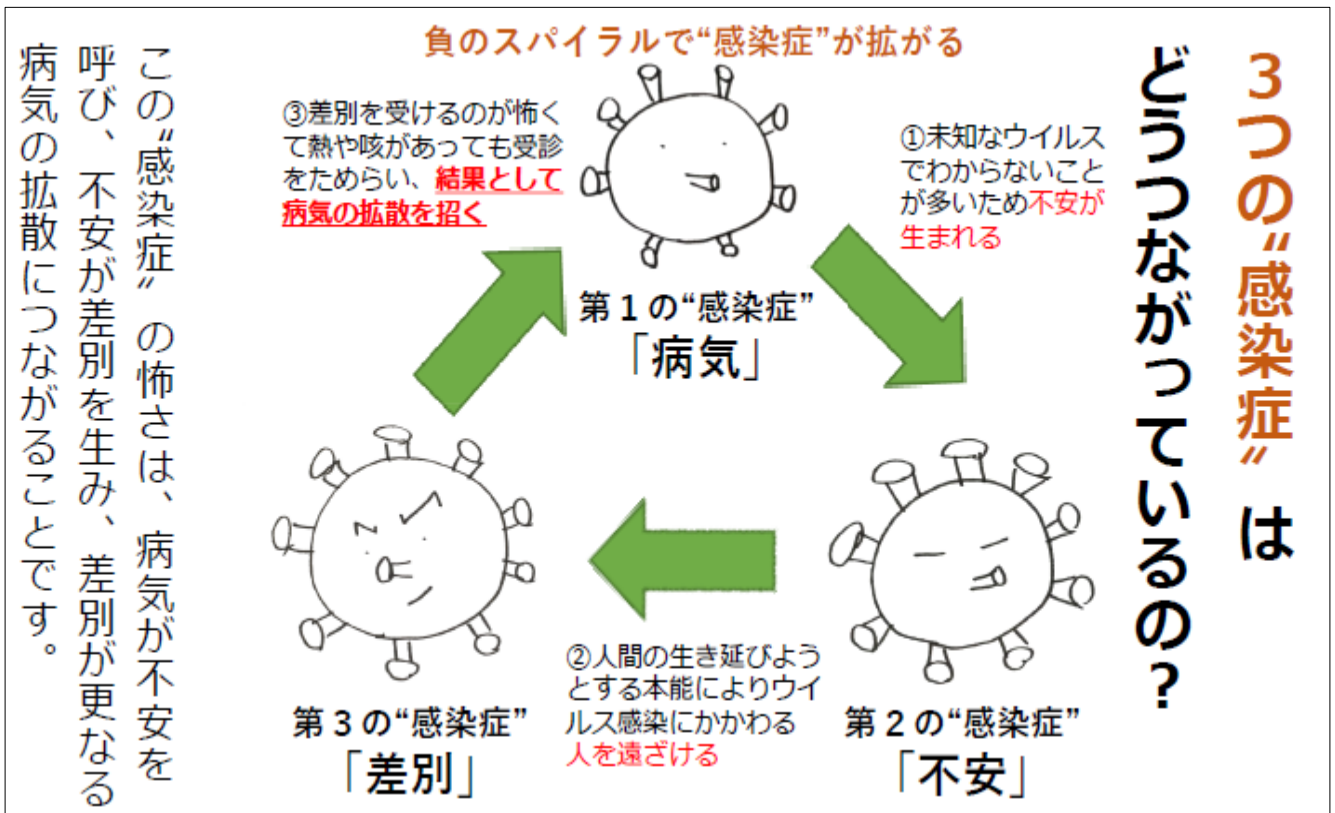


私たちの生活を支えてくださる方々に、感謝の気持ちを届けましょう。



保護者の皆様へ

お子様と一緒に読みください。



日本赤十字社 HP「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！～負のスパイラルを断ち切るために～」より抜粋

発行者：東京都教職員研修センター研修部教育開発課